

Aquarium(アクアリウム)とHydroponics(ハイドロポニックス)の融合

この度は、当社製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本書には本製品をご使用いただくための注意事項、使用方法などを記載しております。本製品をご使用になる前に必ずお読みになり、記載内容を十分にご理解ください。

⚠ 使用上のご注意

- 本製品は、傾いた台や強度の弱い棚などの上には置かないでください。(水槽専用台への設置をお勧めします)
- 植物は、必ずハイドロカルチャー用として販売されている苗をご使用ください。
- 植物の成長を考慮し水槽を設置の際は、冬場でも室温が下がりにくい場所をお選びください。
尚、それでも冬場に植物の状態が悪くなり始めた際は、別売りの観賞魚用ヒーターを下部水槽部に設置し、水温を上げることをお勧めします。(それぞれの水容量にあったヒーターをご使用ください。)
水容量:300タイプ=約10ℓ、300Hタイプ=約23ℓ、600タイプ=約21ℓ
- 水を循環するポンプの流量が弱くなった際には、カバーを外してスポンジやインペラなどの掃除をおこなってください。(ポンプの取扱説明書参照)水が循環していないと植物が根腐れを起こす場合があります。
(ポンプは掃除しやすい様、下部水槽部の前寄りに設置されることをお勧めします)
- 植物育成と観賞魚飼育を同時に楽しむ製品ですので、PHなど水質を大きく変動させる可能性のある園芸用底砂の使用は避けてください。魚に悪影響を与えることがあります。
下部水槽部には必ず観賞魚用の底砂をご使用の上、プランツボックス部には当社別売の「ろかジャリ2ℓ」(ゼオライト製底砂)を使用してください。
- 植物には農薬が付着していることがあります。それらは魚など生体に有害ですので、予め十分洗い流してください。
- 魚を水槽に入れるタイミングは、底砂と植物をセットしたプランツボックスを設置後、水のニゴリがとれるまで、循環/換水をし、水質が安定した後に行うことをお勧めいたします。
(水質の安定させる前に魚の投入を行うと、魚が体調を崩すことがあります)
- 植物の底砂に栄養剤が含浸されたタイプを使用されますと、魚からの排泄物と合わさって、水槽にコケが生えやすくなりますのでご注意ください。
- 別紙取扱説明書に記載の内容も併せて、お読みください。

水槽以外のセット内容



プランツボックス

ハイドロプランツをセッティングするためのボックスです。



循環ポンプ

水槽内の水を循環させるためのポンプです。



シャワーパイプセット

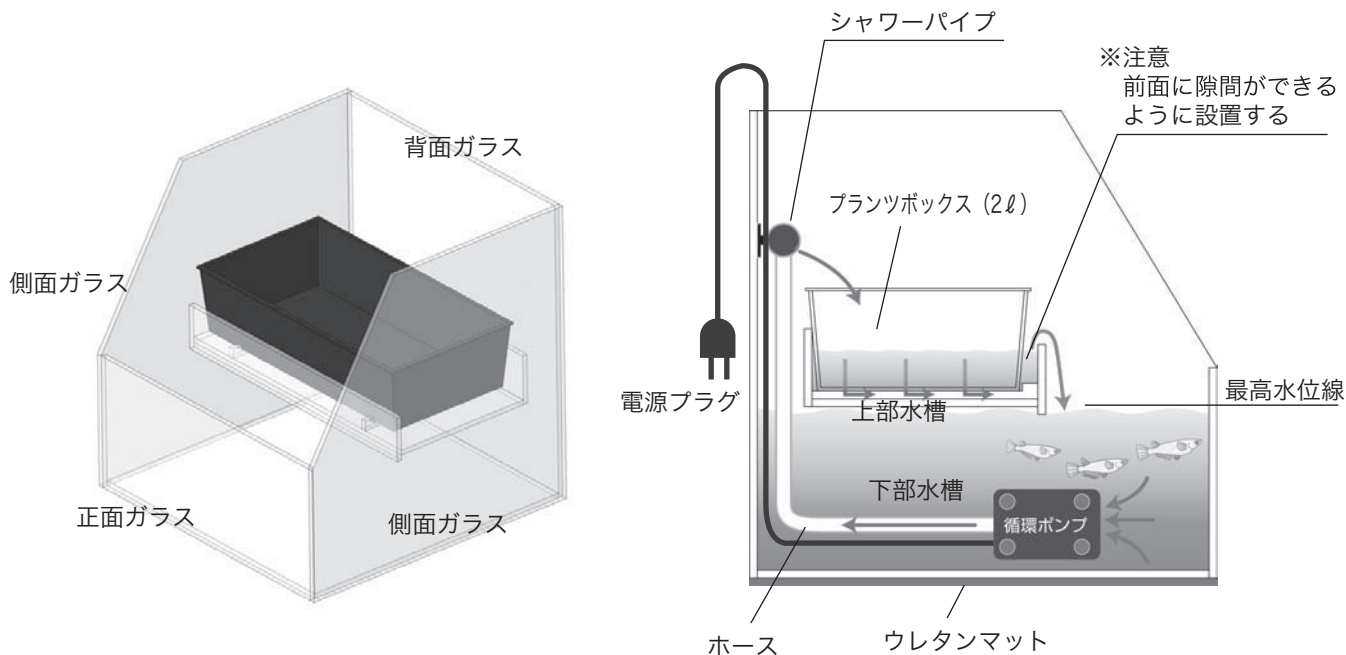
水槽内の水を循環させるためのホース及びシャワーパイプです。



ウレタンマット

水槽を設置する際に水槽の底に敷きます。

各部の名称



設置方法

- 付属のウレタンマットを敷いて、その上に水槽を設置してください。
(植物の成長を考慮し、冬場でも室温 10 度を下回らない屋内の場所を選んでください)
- 下部水槽の側面ガラスに循環ポンプをキスゴムで設置し、電源コードは上部水槽の裏側に通しておきます。
(循環ポンプはお掃除が簡単にできるような図の様に水槽前寄りに設置することをお勧めします。)
- 循環ポンプの吐出エルボとホースを接続します。
- プランツボックスより少し上側の背面ガラスにシャワーパイプを取付けます。
(付属のキスゴムで背面ガラスに取り付けます。)
- ※シャワーパイプの水の出る穴をプランツボックスの中の方へ向けてください。
- 循環ポンプからつながるホースを適度な長さにカットしシャワーパイプと接続します。
(図の様にホースは上部水槽の裏側を通してください。)
- 下部水槽に底砂を敷き、水を入れます。(最高水位は上部水槽の下面までに抑えてください。)
- 底砂と植物をセットしたプランツボックスを上部水槽に設置します。
(循環する水はプランツボックスの下のスリットを抜けて、上部水槽の前面ガラスからあふれ出る流れになりますので図の様に必ず前面ガラスと離して隙間を作ってください)
- 循環ポンプの電源プラグをコンセントに差し込むと水が流れます。(ポンプの中に空気が入っていると動かない事があります。水の中で吸い込み口を上にしてゆすり、空気を抜いてください。)
(電源プラグをコンセントに差し込むときや、抜く時は濡れた手で行なわないでください。感電事故の原因になります)
- ※水が循環をはじめたときは、プランツボックス内の底砂などから濁った水が出ます。循環 / 換水を行い水のニゴリや水質が安定してから魚を入れてください。
- ※植物育成には別途ライトが必要な場合があります。スタイリッシュで長寿命&省エネの当社「フラットLED」シリーズもご使用いただけます。